

コミュニティ・キャピタルとは何か？

西口敏宏（一橋大学名誉教授）

キーワード：コミュニティ・キャピタル、社会ネットワーク、同一尺度の信頼

血縁・同郷縁に基づく商業ネットワーク、あるいは、市場関係のサプライチェーンといった見かけ上の差異を超えて、よく機能するつながり構造をもつコミュニティでは、継承された、あるいは、新たに共有された成功体験が成員間に「刷り込まれ」、その累積から「同一尺度の信頼」が派生し、同じコミュニティへの帰属意識が強化されると、面識のないメンバー間でさえ、積極的に協力しあう「準紐帯」が醸成される。その結果、個人能力の総和とは異なる、特定コミュニティのみに顕著な環境異変への耐性と成育力を担保する排外的な「コミュニティ・キャピタル」が醸成され、しばしば長期的繁栄を伴う。|この「刷り込み → 同一尺度の信頼 → 準紐帯」という社会的概念の発生と循環過程は、温州人企業家のように、単に個人的な、あるいは、血縁・同郷縁の関係のみに限定されない。例えば、トヨタのサプライチェーンなど、“非”特殊個人的、“非”血縁・同郷関係に基づく一般的な企業間関係でも、共通のルールや制度に基づく機能的等価物が担保され、その成果が「見える化」して共有される限り、優れたパフォーマンスが継続的にもたらされる。|つまり参与者を結びつけ、集団的目的に駆動する社会的な仕組みが存在する限り、地域社会や民族性に根ざした血縁・同郷者の間からも、あるいは“非”血縁者同士のビジネス関係からも、似通った機能と帰結を伴う“中範囲の”「コミュニティ・キャピタル」（同じコミュニティの成員間で活用される関係資本）が発生し、彼らの共存共栄を促進する。|そうした観点から、本稿が提唱する“中範囲”の分析単位である「コミュニティ」は、「個人」あるいは「社会全体」から明確に区分される。|コミュニティ・キャピタルは、従来のソーシャル・キャピタル概念の両義性と適用上の諸問題を克服し、これまで必ずしも的確な分析がなされてこなかった中範囲の境界が明確なコミュニティ、しかも特定の地域や血縁・同郷者に依拠するものから、より一般的な企業間関係などを含む、広範なアクターからなるコミュニティの営為を、共通する概念的基盤のうえで、分析するための有用な概念であると想定される。|目に見えないが、手に届く範囲の関係資本によって駆動される性質のものであるからこそ、そうした実践的で”生きた”ネットワークの運用方式は、累積的進化を伴って、機敏に集団目的を果たす。|